（明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可）（日刊）月曜及祭日之翌日休刊　明治四十四年八月十三日（日曜日）第七百五十五號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一ヶ月前金三十錢 ▲三ヶ月前金九十錢 ▲六ヶ月前金一圓八十錢 ▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料 ▲普通活字十七字詰一行一圓 ▲五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久錦一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社
電話（京城）四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

見聞錄

恐々縮々庵主人

▲濟生會の義金募集は大に進捗し總額七百萬圓の多きに達すべく又官吏側の分も三百六十萬圓に上るべき豫定なりといふ、言ふ迄もなく濟生會の生れたる聖上陛下の御慈悲に基きて起りたるものなれば本土の富豪又は有志家は勿論苟も日本帝國臣民にして餘財あるものは奮つて寄金あらん事を望まざるを得ず、之れ蓋し理屈の問題に非ず情の問題なり、權利の問題に非ず涙の問題なり、要は其の身分財産に應じて進んで醵金するにあるのみ、而も言ふ勿れ横濱の平沼、大坂の鬼權一叟の醵金を以て虛榮、衒耀、亦亡しの爲めと、蓋し結果に於て美事善事ならんには他は問ふの要なし、而して余は一日も早く在鮮內地人の醵金を望まざるを得ず。

▲長いものには捲かれざるを得ず、日本の富豪三井にては這回朝鮮に於て山林經營の企あり、而して又仁川に於ける十三個所の製鹽を買收し一手にて製鹽事業を經營すべしとの計劃あり、前者の事業に就ては同山林課長柴田榮吉氏渡鮮し十三道の重もなる山林を踏破して實地調査を試む、蓋し得る所のものありしや疑ひなし、而も氏は記者の問に對し平然として答へて曰く「小區域の山林はありされど見て以て經營するに足るべきもの一もあるなし」と蓋し然らん而して其の然るを知らず其の然らざるを解せずして漫然として經營し山林有無の問ひを發す蓋し之れ予の不粹といはざるを得ず、誰かある異珠を拾はん人にして異珠の所在地を人に示さんものあるを、思ふに熱鐵なる海士の來りて此等の異珠を奪ひ去らんとするの日は夫れ近きにあらん乎、要するに三井にして之等の經營に着手す、半島開發のため大に多とせざるを得ず。

▲曾て東京の或る雜誌に傳ふ「桂首相の後繼を狙ふものは寺內伯」と思ふに狙ふものゝ心事如何は解するに由なきも今は斷じて其の時機に非ず、一時傳はりし寺內內閣は時勢變轉途に架空の噂に止まり今は又一人の口にするものなし、然れども伯は平素政黨を忌み總督政治以外母國の政治に就て云爲するを好まざる如く見ゆるも其の實は然らず漸次手を政黨操縱に染め徐ろに暗中の飛躍を試みんとするの野心勃々たるものあり蓋し從來の行動進退の跡に就て稽ふれば恰かも蒼龍の片鱗を雲間に現はすが如く間々政治的野心を漏らすことなきに非ず、世說の所謂總督專任の如きは敢て予の問ふところに非ざるも要するに伯の政治的行動は近き將來に於て徐ろに見るを得ん乎。

雜報

鴨綠貯木問題

鴨綠江採木公司の安東縣貯木場堀割問題は久しきに亘れる未解決案件なりしが安東縣民團との關係上兎に角公司直營の下に行ふ事となり過般漸く滿鐵會社との間に附屬地の貸借條件成立し既に正式の調印迄了したる由なるも同公司現在の狀態より察し果して其條件通り明年を期し既定計畫の實行を望み得べきや否や豫め異否を確め置く必要あるより更に附帶條件を添ゆる事となり居たるに近來の交通運輸の情勢に鑑み鴨綠江架橋竣成後江岸利用の埠頭港營の必要を認むるに至り過般滿鐵會社埠頭事務所高野吉太郎氏同地に出張し種々調査せる結果によれば鴨綠江岸將來の運輸關係は頗る有望にして其施設經營に關して日諸方面との連絡方法等を講究するの必要あり殊に採木公司の經營せんとする貯木場の如き最も關係の深き事業は輕忽に決定し難き理由あるを以て篤と調査研究を重ねたる上許否を決すべきものなりとの意見ありて同橋問題は今俄かの儘にて何れとも決定し居らずとのことなり

麻生鑛山病院

麻生音波氏經營の安所鑛山にては這回同の構內工務所に鑛山病院を設くるの計畫あり院長は二等軍醫宮地高敬氏興劑師は香田某副院長は漢城醫學校卒業の朝鮮人を招聘すべく目下撰定中又看護婦は產科兼修せし內地婦人を招聘すべく是も撰定中なり而して此等の撰定は總て藤田總督府醫院長に托しあり愈々開始の曉は鑛山從業者の治療を爲すのみならず附近一帶の朝鮮人には藥價を割引し貧困者には施療の筈なりと

雜錄

散步

オルハン生

晚食後の蒸し暑さに汚い狹い部屋の中には居たまらず、行く當てもなしに散步に出た、電車の停留場に蛇の目のやうな眞紅な火の燈つた頃、揃つて、華奢な浴衣を着た幾群れかの若い男女に遇つた、車の上から匂ひの高い香水の薰りを殘して行く美人もあつた、自分はこんな歡樂に醉ふた市を通り越して朝鮮人の寂しい部落に出た、蟬の聲が夕暮の名殘を惜むやうに聞へて居る大きな榎の本に幾人かの朝鮮人は大地に寢轉んで、餘韻の長い歌を謠つたり、煙草を吹かしたりして居る、其邊りには、濁つた水を飮み殘したサバリもある、眞瓜の皮も散つて居る眞黑に日に焦げて腹の膨れた無邪氣な子供も居る、文明の風は何處を吹くとも知らぬらしい彼等の平安を心ろから、羨やましく思はずには居られなかつた。

文明とか、野蠻とかは相對的の言葉である客觀すれば、うんな區別もあらう彼等の頭には、セキスピーアー、モーパッサン、ゴルキー等の文學や、アリストートル、ソクラチースなんかの哲學は勿論ない、汽車や、電話や、旅行機關を尊ろ神秘視して居るだらう、識者の眼より見るた彼等は確に可憐であらう、而し人間は斯くあるべきものである、其日其日を喰つて行けば良い、名譽も地位も權威も無い、只驅ろ氣な現實がある許りである、無限から無限に行くタイムの其一瞬に觸れながら夫れすら意識せず醉生夢死する程の幸福はないだらう、彼等ぞ愚昧視、野蠻視する識者には常に世の進步と生存の競爭とにともなう煩悶と、不安とが襲來するだらう、けれども彼等は案外平安な其日其日を送つて居る

節儉か吝嗇か

世外生

節儉と云ふことは何の程度までが節約若しくは儉約の美德に容り得るであらうか

節儉、何事でも――卽ち汽車ならば一等は二等に二等で……と思ふ時も三等で濟ます、と云ふ風に總ての事を節約するのが其の美德であらうか

例令て云はば人力車に乘る五十錢遣れば車夫は默して受け取る五錢を節して四十五錢を遣るとすれば不服を鳴し且つ多少罵詈を放つ併罵詈は忍べば足る忍べば五錢を節し得らるる此れも果して節儉の部に入るものだらうか

例令て云はば家に冠婚の祝儀あり客を招いて飮宴するに數五十に五を加へたるの故を以て五十の上より汁の一盃芋の一切を削りて五十に五を加ふる客を接待し得たりとするか之れも又節儉と云ふべきか

曰く悉く否なり、否は卑なり、賤しきを見て可なる所以を知らず

一言にして云へば節儉とは出財を制するに非ずして心の赴く所を制するにあるなり

俳句

短夜十句

多田千寨

我宿は戶の節穴に明け易き
明け易き錦鳴る奈良の都かな
瓜茄子かぼちやの花や明易き
短夜や誰に問ふても知らぬ雨
短夜を囁き足らぬ遊女かな
短夜や話しの長き客一人
短夜の忘れ者らし池の月
短夜や油のしまぬ枕紙
寐心のよきに短かき夜なり鳧
嫁入の提灯更ける短夜かな

召使れ初

第百二十八回　黑法師

實に雲を摑む如く不思議なるは、お詮議の身に掛る嫌疑なりき、奧方直々の仰せとありて、詮議の役を中年寄相生に同じく若江の二人に命せられぬ、高が陪婢の詮議なれど、事柄が事柄、機會が機會なれば、澤野國尾二人の權衡を保つ爲め、特にこの二人を撰まれたるなり

詮議の場は長局の一室に開かる、座の中央には相生と若江、緣側には力自慢の女中八九人、いざと云はば飛び蒐り懸りて、一挫ぎにすべき氣色、何れも油斷なき目の色をお察の上に投げかけぬ

お察は繩こそ掛けられね、見るも無慘の姿して、お緣下に引き据ゑられぬ、背後に蹲踞りしは、年若き女中五人、紅の襷、白絹の鉢卷、精悍しく据からげして、男ならば獄卒、女ながら夜叉に齊しき相格なり

「お察、顏を擡げ」

憎さげに斯く云ふは相生なり、お察は沈と顏を擡ぐる、眼の中に無念の涙、眉の間に悲嘆の雲

「役目なれば詞を改める、うなた父親大病と申し立て、お上お目を瞞まさうとしても其手はなるまい、御詮議は屆いてある、毛利甲斐守樣御內松田助八そなた親か」

「御意にござります」

「松田助八病氣の云ひ立て、第一主人を欺く仕方、助八殿お健康ぢや」

「お、左樣の儀……」

「申すな、陳ずるな、此度ぞのお役蒙る身が、左樣の調べないと思ふか、今朝役人衆御出馬、委細お取り調べなさせられた」

「什麼とお詞ござりましても、昨日現在兄の助藏、餘命旦夕に迫りある旨、態々申し傳へ呉れましたに由て、今生の暇乞ひ致したく、旦那樣にお暇を願ひ、取る物も取り敢ず急ぎ下りましたる處、折惡く御門限、羽翼なき身を恨みある折柄、お使番お君樣在らせられ……」

「まだ〳〵云ふか、怪しからぬ奴」と相生は頭から被せかけ「一筋繩では白狀も致しかねる氣、水にてもお食せませうか」と相役若江が見返りたり

「まづお待ち遊ばしませ、左樣には爲させられいでも、白狀せぬお察でもござりませぬ」と若江は優しう聲かけ「うなた忠義の者と聞く、お上へ對し假にも僞りあつては爲らぬ、兩道を白狀爲すれば日頃心掛けに免せられ、格別お慈悲ないにも限らぬ、兄助藏參りて云ふ、うれに相違あるまいの」

「微塵相違ござりませぬ、神々樣も御照覽、私生れて二枚の舌使ふたことござりませぬ」とお察は詞持しく云ひしが「今一應お訊ね、父助八無病の事、眞實でござりまするかな」

「私も目前に見たでは無いが、澤野樣お申し付け、お廣敷役人衆態々お見舞ひなされた處、一面病氣の體はなく、御內職蠟燭の心をお繞りなされてあつたといふ、相違はあるまい」

「うりや實でござりまするかな」

「二枚の舌を使はぬといふ身ふが、お上お役人衆を疑ふは宜しくない」と若江は叱るやうに云ひしが「助八殿無病とある上、兄御口上間違ひに極つた、そなたお心當りの事ないか」

「恐れながら兄を疑ふ心ござりませぬ、殊に父上大病など忌はしい事云ひ立て、態々妹を欺くほど愚者ではござりませぬ」

お察が詞清く答うる時、相生の眼は冷笑ふやうに光りて、する〳〵と膝を進めたり

廣告

京城新報

總督府の官制改正を贊す

近く、駐箚軍司令部を廢し、總督府內に陸軍部を併置し、之と同時に總督府の官制を改正し、現任の各部を廢して中央政務機關を縮少する事の傳へらるゝは、根據ある事にして決して聞違のなき報道なり。之に對して例の御用紙は十二日の紙上にて各部の廢止は事實無根なりとして之を打消すと共に益々統治機關の擴大を希望するが如き口吻を洩らせるも、這は平素官場萬能を鼓吹し、官人輩の鼻息を窺ふことをのみ能事となし、眼中に國家も人民もなき京城一流の常套語として一顧の價値なきのみならず、自己の都合主義より打算して、折角政府が半島統治の實際上に稽へて、中央政務機關の統一を創し、之れに因て政費の節減を計り以て國家の進運に資せむとするの善行を否認し、反つて爲政者の徳を傷けむとする御用紙の態度、これをして贔屓の引倒しと言ふ可けむか、爲政者の迷惑さこそ推するに難からざるなり。

顧ふに、半島統治機關の尨大なりし割合に、政務の敏活を缺きたるは伊藤公曾禰子兩統監時代既に認められし所なり、然れども此時代に於ける統治機關は韓國を主觀し、總て韓國政府を本位とせしものなるを以て、之を現代と同一觀する能はざるの事情あり、故に尨大の嫌ありと雖も猶忍ぶ可きも、併合後の半島統治機關が依然として、舊韓國時代のそれと相去ること遠からざるものあるは、其時勢に適應せざるや論なく延て國家の不利益を釀すものなりと言はざるを得ず。

今や、半島統治の施設殆むど其緒に就き、從つて政務にあつても、併合前後の幾多の荊棘を排除し以て地盤の鞏固を謀りし程の難事を見ず、唯所定の目的に向つて過ち無く進めば可なり。然るに內務部度支部農商工部司法部と各々部を分ち之に高級の官吏を配置するの必要それ何くにかある、而かも此分れたる各部を統一して事務の敏捷を期せば高級長官の外に冗員の多々ある可きを發見すべし。吾人は本紙に長官會議の記事を掲ぐる度毎に、舊韓國時代に行はれし大臣次官會議の遺制を踏襲せるものとして、竊かに苦笑を禁ずる能はざりし、何となれば各部長官會議の目的重要政務を議するにありと稱すれども、重要政務悉く長官會議に於て解決せらるゝにあらず、其法制に關するものは內閣法制局の審議を經ざる可らず、事經費を要するものにあつては、東京政府の否定に次で帝國議會の協贊に俟たざる可からざるにあらずや。斯く觀來れば、一として東京政府を離れては何事をも爲すを得ざるなり、然るに名を重要政務に藉りて長官の會議を開くは、これ虛器を擁せし舊韓國時代の大臣會議と、性質上毫も異なるなし。萬事簡捷を旨として統治の實を擧げざる可からざる今日にありて此の如きものゝ存するの要あらむや。特に半島統治府に對する繁文縟禮の非難は吾人の屢々耳にする所にして、現に會社令により會社許可の出願をなし其許可の指令に接する迄には長き日子を重ねつゝあるは、要するに各部分立より來れる繁文縟禮の結果なりとす、政府旣に見る所あり近く官制を改正し、統治府の規模を小にし、余力を地方行政に注がむとするの計畫を立つ、平素半島統治の爲に苦言を呈する吾人と雖も、政府の此計畫に對しては極力贊同せざるを得ず。若し夫れ御用紙が言ふ所の土地調查事業の如きに至つては各部の存廢に關せずして遂行せらるゝものなり、政府豈彼等の言に盲從せらるゝものならむや。

東京電報

寺內總督伏奏

十日歸京したる寺內總督は十一日午前十一時參內、天皇陛下に拜謁し併合後に於ける朝鮮の狀況に就き委曲伏奏する所あり尚李王李太王殿下の御傳言並に殿下より下賜品に對する御禮を言上したり

上旬の貿易額

本月上旬に於ける外國貿易額輸出一千四百四十三萬圓にして輸入一千百九十萬三千圓なり差引輸出超過二百九十二万七千圓を示せり

英米條約發表

英米仲裁條約の要項は十一日午後外務省に發表せられたり其の要點は外交手段にて解決付かざるときに仲裁々判に付し右に關して共同調查委員會に付し全文七ヶ條より成れり

條約改正段落

帝國政府と締盟列國との間に交涉しつゝある條約並に關稅條約の改定は佛國及葡國を除く外、英、米、獨、和蘭、丁抹、加奈陀、伯西牙、瑞典、伊太利、那威等の十二國と既に成立し內瑞西、和蘭、丁抹、伊國、墺國、の七ヶ國とは既に調印の取極めを爲し之にて條約改正事業も一段落を見たるが此等所定の條約の取極めを爲したる七ヶ國は何れも議會の都合上本條約を締結する事能はざるものにして本年十月の交を以て何れも議會開會せらる可きを以て其時期迄に本條約の交涉を進むる筈なりと

▲山縣邸密議

寺內總督は十一日午前九時山縣樞相を訪問し桂首相も來會し約一時間半に涉り密議を凝せり

▲三相密議內容

既電山縣老公邸に於ける三相の會見は政權の受授寺內陸相の進退並に陸軍擴張に關する重要問題に就き密議せるものありと觀測せらる

▲政局の風雲愈急

桂公西侯間に密使の往來頻りなり政局の變轉意外に速なるべし

▲王世子の歸京　李王世子殿下には十一日午後三時二十分新橋着歸京したり各宮殿下を首め奉り官民の出迎盛んなりき

▲兒童保護法案　內務省にては目下地方局に於て兒童保護法の編成中なるが同法の內容は市町村に兒童扶養所を設け救護者なき孤兒は其市町村にて救養し又捨兒ありたる時は之を發見したる市町村に扶養す可き制度にて全文三十餘ヶ條に渡り歐米の兒童扶養法に則りたるものなるが次期議會に提案するに至るべし

▲電線被害少なし　東京を初め附近各地に於ける今回の降雨は甚大なりしも幸にして電信電話に差したる被害なし

▲騎兵操典改正　改正騎兵操典は教育總監部に於て審議中の處此の程終了したるを以て大島教育總監は近々賢き邊に奏上し遲くも九月中旬迄に再び軍事參議官會議に附議すべし

▲濟生寄附都市別　九日現在の調查に依る濟生會への寄附金額は東京の七百十萬三千圓大坂の三百六十二萬八千八百圓京都の三十七万三千五百圓福岡の三十四萬五千圓外各地方及內閣宮內省各省及朝鮮關東州臺灣其他を合し合計一千六百十六萬八千六百六十圓に達したり

雜報

●鑛床調查と許可數

既報の如く農商工部にては比較的出願數多き地方の鑛山の鑛床を調查すべく本年五月中村、田村、川崎の三技師を地方に出張せしめたるが中村技師は平安北道の義州、博川、寧邊、嘉山、宋州、郭山、雲山、泰州地方を川崎技師は咸鏡南道及平安北道の一部たる安邊、元山、文川、白翎山、永興、高原、定平地方を田村技師は平安南道及び黃海道の海州、長淵、載寧、黃州、安岳、中和、平壤地方を調查しつゝあり本年內には完了の豫定にて來年は殘餘の調查に着手する計畫なるが何分中途にして發見する場合あるを以て全道を通じて調查完了となるには四五年の日子を要すべしとなり尚最近に於ける鑛業、砂鑛業許可內外人を道別に依て掲ぐれば

京畿道	鑛業	二十一名	砂鑛	十四名
忠淸南道	鑛業	二十三名	砂鑛	十九名
同　北道	鑛業	二十七名	砂鑛	二十四名
全羅南道	鑛業	五名	砂鑛	三名
同　北道	鑛業	六名	砂鑛	五名
慶尙南道	鑛業	六十一名	砂鑛	二名
同　北道	鑛業	四十九名	砂鑛	八名
江原道	鑛業	二十四名	砂鑛	十六名
黃海道	鑛業	四十名	砂鑛	十三名
平安南道	鑛業	五十二名	砂鑛	二十五名
同　北道	鑛業	百八十名	砂鑛	三十六名
咸鏡南道	鑛業	五十四名	砂鑛	十五名
同　北道	鑛業	二十二名	砂鑛	一名

なりといふ

●通信局收入增加

通信局本年五月に於ける收入增加額は前年度の同期に比して三萬八千五百十五圓其割合は二割九分五厘なりとす而して前年度五月中の收入は十三萬七百二十三圓八十三錢七厘にて本年五月は十六万九千二百三十八圓三十九錢七厘なれば此增加を推定して其增收總額を見るに本年は前年度より約四十三四萬圓の增收の見込なれば來年度豫算も略此計數を基礎として增收額を算定さるべきならんとの事なるが此の收入增加は主として併合以來內地人の增加により郵便電信及電話の使用者激增したる結果と鮮人が通信力を利用するものも增加したるに原因するものなりと云ふ

●東拓農事況

東洋拓殖會社の朝鮮に於ける農事經營狀況を聞くに其投資金額は百九十萬五千三百五十四圓にして所有地所在面積は平安北道に六十四町歩餘黃海道三千八百五十二町歩餘京畿道八百七十三町歩餘忠淸南道八百一町歩餘全羅北道二千三百十町歩餘全羅南道二千七百五十六町歩餘慶尙南道一千四百七十町歩餘慶尙北道二百十二町歩餘にして總計一萬二千三百四十二町歩餘なるが內田九千六百七十餘町歩畑二千五百八十餘町歩山林其他九十餘町歩なり而して其內自作は畑二十町歩に過ぎず他は皆小作なりと

●臨時長官會議

十二日午前九時より臨時長官會議を開き山縣總監倉富、荒井、大屋、池田、俵、宇佐美、明石、菊地、小松の各長官、兒玉秘書官、秋山參事官等列席し政務に關し協議し十一時散會したり

●併合と臨時祭

來る二十九日は併合一週記念日なるを以て民團理事者は例祭日を繰上げ特に當日に於て大神宮の臨時祭を執行すとの事なれば市中の有志者は宜しく各種餘興の催をなし大々的に當日を祝することそ可なれ

●安東新報の停止

言論檢束の厄雲は既に朝鮮を通過し今や滿洲に現はれたり即ち九日の安東新報は木部領事より發行停止を又た新義州にて發行する鴨江日報は安東縣領事館內にて發賣禁止を命ぜられたり同地の記者團は木部領事の言論抑壓に憤慨し總會を開き其の不當を決議し尚は一方記者團事務所を京城日報支局に置き今后大々的に木部領事を懲すべしと記者團の事務所を朝鮮總督府御用紙安東縣支局內に置けるは頗る滑稽と云ふべし

●各廳舍の移轉期

總督府增築廳舍の工事竣成したるを以て永樂町及貞洞にある各部は近々夫々移轉する筈なるが會計課は準備の都合にて來る廿三四日頃新廳舍に移り度支部、法部、農商工部等は二十五日より二十九日までに全部移轉する筈なりと云ふ

末廣博士の談

我輩に朝鮮の視察談をといつたところで夫れは無理だ何にしろ初めて朝鮮に渡つて釜山に一泊後一昨夜(十日)着京した許りであるから之れといつて具体的に御話しいたす程の事は何もないヤツト昨日あたり二三同窓の士に逢ふて朝鮮の話しを聽いた位で却つて事情に明るい君達から敎を乞はねばならぬ――何に穀物移入稅撤廢は何うかと夫れは勿論贊成さ實際日本は政治上に於て朝鮮を併合したが未だ經濟上に於ては併合の實を擧げぬ他は別問題として此の穀物移入稅にして撤廢されたならば日本の中流以下の國民は何の位仕合せか知れぬ朝鮮に於ける母國人も承知のことだらうが近來日本は年を逐ふに從つて物價騰貴し到る所生活難を稱へて居らぬものはない一概に衣食住といふけれど這う生活難の爲めに苦しめられては單に食住丈でも苦しい失禮な申し分ながら母國に於ける小學校の敎員又は巡查などは其の服裝の點に於て實に憐むべきものがあるさるを政府の當局はヤレ工業を盛んにせ！殖業を振はせよなど云つて居るがイクラ工業を盛んにしたところで國民に生產物を買ふ資力がなければ駄目ではないか食住に苦められて居る國民がドウして夫れ以外のものが買ひやうか此の點からいつても我輩は移入稅撤廢を主張するか併し十年据置きとあつて見れば其の場合致方がない又外國の例もある事であれば當局の苦衷の存する點も察してやらねばならぬ兎に角朝鮮は母國と異つてイクラか生活上の競爭が緩かなやうであるから母國人から見れば多少羨ましくソレで年一年に渡鮮者が多くなる譯なのだらう云々同氏今回の視察は直ちに滿洲にわたり滯在五六日にして安東縣より奉天に向ふ豫定なりといふ(一記者)

●各會社の民團稅

京城民團役所に就て本年度の會社組織の營業に對する課稅額を聞くに次の如し但し民團にては會社營業に對し他に特殊の稅目を設けずと

社名	營業稅	戶別稅
東洋拓殖	二〇〇〇圓	三〇〇圓
第一銀行	一五〇〇	二〇〇
日韓瓦斯	一五〇〇	二五〇
百三十銀行	一二〇〇	一五〇
十八銀行	一〇〇〇	一五〇
東亞煙草	七〇〇	二五〇
三井物產	七〇〇	二五〇
起業會社	五五〇	一二〇
勸農會社	四六〇	一〇〇
土佐紙會社	四二〇	一八〇
三越吳服店	三〇〇	一〇三
韓國實業	二五〇	七〇
十友合資	一六〇	八〇
日韓書房	一六〇	〇
日韓印刷	一四〇	八〇
內國通運	一二〇	六〇
畜產株式	一二〇	六〇
京城水產	一〇〇	五〇
帝國生命	一二〇	四〇

此內に土地稅として勸農會社の百十四圓九十錢第一銀行の七十四圓三十七錢東洋拓殖の四十五圓六十九錢起業會社の三百二十四圓七十五錢日韓瓦斯の二十五圓九十五錢水產會社の十七圓九十一錢を重なるものとし總額甚だ僅少なりと

●水產業の獎勵

京畿道にては兼てより道內に於ける水產業の發展を企圖し着々調查の歩を進め居るが今之れが槪況を揭げんに仁川に於ける漁業は水產技手をして灰繩網、鮟鱇網の使用法を附近の鮮人漁民に實習せしめつゝあるが漁民は何れも熱心に實習しつゝあり又蛭貝、蟶貝及び螺貝は年々漁獲の爲め漸次其の數を減じつゝあるを以て之れが養殖所を設けられ其成蹟見るべきあり近く國產として發達せん偖て次ぎに漁船及漁具に對する補助は漁船を新造し漁具を新調する際之れが申請に基き相當補助額を下附することゝなり居るが昨今のところに於ては至つて少額なりといふ尚道廳直營として水產物製造模範所を經營し居るが須ば堅貝の如き長崎より來るものは百斤四十三圓臺なるに反して仁川物は百斤二十四五圓にて價格の差甚しく其の原因は仁川物は其の製法疎雜なるが故に販路も惡く依つて之れが製造の研究に努め居る由因に仁川に於ける漁業が十月末より翌年三四月頃迄休止の狀況を呈するは潮水寒冷の爲めに原因するものにて又漁業法と雖も其の設備完全ならざるより充分の漁獲を見る能はずとなり

●鎭南浦人口激增

其筋の調查に依れば鎭南浦の在住內地人は今春來非常に增加し客月の如き一ヶ月間に二百七十八人の增加を示し今や戶數一千百四十九戶人口四千百六十九人を數ふるに至れりと云ふ

●各官吏の昇給

警視張爲尹松氏外五十八名の高等官は一級俸乃至八級俸に郡守四十一名は八級俸乃至十級俸に各昇給したり

●牧師團の歸着

內地に渡航し各所に於て多大の歡迎を受けたる鮮人牧師團一行は十二日午後八時十分着の列車にて歸着すべし

●平南の害蟲發生　平安南道龍岡郡地方は數年前松樹に害蟲發生し被害甚大なりしが本年も同郡金川谷面の松樹林に發生蔓延の兆あるを以て目下驅除方法に付考究中なりと

●咸北官有財產調查　咸鏡北道に於ける官有財產調查のため會計局營繕課より生田屬外數名を派遣する筈なるが一行は來る十五日出發すべしと云ふ

●麻浦船橋の復舊　過般の水害にて流失せし麻浦船橋は其後復舊工事中なりしが去る八日竣工し交通を開始せりと

●岡本課長の消息　過般來慕參の爲め鄉里に歸省中なりし遞信局工務課長岡本桂次郎氏は今回電氣事務打合其の他の用務を帶び東上したりと

●野田技師の出張　農商工部商工課の野田技師は平壤、鎭南浦、龍岩浦、義州等へ出張を命ぜられ數日前出發したるが主として同方面の工業狀況調查のためなりと云ふ

●讀賣新聞特派員　天倪渡邊豪氏は東京讀賣新聞の特派員として今後は專ら同紙の爲に執筆する由なり

●秋山技師の歸省　遞信局秋山技師は暑中休暇を得て十二日出發歸省せり

●講習會員の龍山行　教監講習會員の一行百三十餘名は十二日午後一時より龍山軍司令部及同總督官邸等を視察したり

●村田分隊長の歸任　高陽坡州等の各郡へ出張中なる村田第二憲兵分隊長は來る十五日頃歸任すべしと云ふ

●鍾路郵便所長交迭

京城鍾路郵便所長仁科三郎氏は家事上の都合により這回依願免職となり其後任者として三輪二九郎氏同所長を命ぜられたり三輪氏は多年遞信事務に經驗あれば鍾路郵便所の發展期して待つべしと

公人私人

▲森井則(海州裁判所判事)十一日入京不知火旅館へ
▲小鹿島繁(開城農銀支店長)同山本へ
▲前原藤太郎(鑛業家)同天眞樓へ
▲兒玉文太郎(同谷製糸會社重役)同上
▲坂部專準(法制局參事官)京城ホテル
▲吉川岩喜(平壤鑛業所業務課長)十一日出發太田へ
▲前原重時(總督府技師)同鎭南浦へ

▲京城手形交換高▼

八月十二日　金高 九四、二〇〇、七四〇　枚數 八四〇

▲治外法權▼

一昨日も昨日も本欄に米に就いて書いたが、今日もまた米に就いて少し書かねばならぬ▲米は豐葦原の瑞穗の國、我日本の特產物だとは昔の事、今は內地平作の年でさへ僅かに四百萬石は不足、而して此不足はドーにかして補はねばならぬ▲半島が帝國の領土となつた、而して此新領土には米が澤山出來る、然るに馬鹿々々しきは政府の措置で、此新領土の米を內地へ入れぬ樣にして居る▲云はずと知れたことなれど、若しも朝鮮米に對する內地の移入稅が撤廢されば內地に於ける半島米の需要が增す、從つてコチラ產地に於ては米の作附段別が殖へる▲之れを聞く、昨四十三年度に於ける半島米內地仕向け高は五十萬石餘だ、而かも此五十萬石は高い移入稅を拂ひつゝ行くのだ、で、若しも移入稅にして撤廢されんか、今の五十萬石は近き將來に於て、百萬、二百萬、三百萬、ワイには四百萬石となり、內地不足の全額を補ひ、從つて米價の調節が計られるやうになるのだ▲目下來京中の末廣重雄博士は其以前有名であつた雪中梅の著者末廣重恭の子息だ、博士曰く米價の高きは工業を退步せしめ、政府宜敷移入稅を撤廢して可なりと▲末廣重恭と云へば、彼れの朝野新聞時代は記者として亦た政治家として盛んなもの、今は世から隱れて居る、當地壁文堂の主人西川の如き同人と莫逆の友で當時過激の政論を試みては一ショに監獄へ行つたものだ▲山縣政務總監が各道長官へ向け水害調查の報告を至急にすべしと命じたとの事だが、扨々天地悠久、道長官等のユックリした態度よ▲ダが序に云ふが過日も云つた通り各道廳が水害調查報告の出來ぬのは彼等の暢氣なるセイ許りでなく、一つは調查の手を有せざるからデ、現在の樣に一郡に一人の判任主事があるのみでは何の調查も出來ぬ。

多情多恨

京城藝妓の半生
花月樓れ茶羅(二)

堰かれて兩人の間は遠ざかる、遠ざかるからに流石情死と迄思ひ詰めた無分別の熱も冷めて試ると隨分馬鹿〳〵しくなるもので從つて餘りに上り詰めた自分が可笑しく愧かしくなるモウ土地にも飽きが來た四十一年の二月當地の花月と約束か出來て三月初旬現の名で「何卒宜しく」と現はれると間もなく飛び着いて來たのが内務部事務官法學士——と云ふ悧巧相に聞ゆる平渡チビ君、夫れを承知で手を出したのが平渡君の親方分なる岡次官、一寸親子を兩手に——と云ふ形であつた、讀者は當時同樓の愛嬌妓に房枝と云ふのが居たことを御存じであらう而して更らに其の房枝は元第一銀行の營業課長現韓銀重役木村雄次君の寵妓であつたことも御存じであらう、然るに木村君「れ前一人と定めて置いて浮氣や其日の出來心」と云ふ奴を出してれ茶羅へ當つて見る、れ茶羅元より厭ではないが房枝への義理もあり且つ日朋輩の思惑もあるので遽かにウンと云はないのではない、言へないさらばとて斷る程の勇氣はないから生娘が好いた男に袖を引かれた形で「知れると叱られるワ」と咽喉を乾かして居た、然るに恰も良し房枝は或る人に何にされて内地へ戻つたので今は天下誰れに憚る者あらんや若し有りとすれば木村さんの奧さん斗りだと誠心誠意を以て之れに侍つて居るとも知らず又候手を出したのが婦人科病院長ドクトルメヂチーチ工藤武城君、れ茶羅定めて肱鐵砲でも食はせる事かと見てあればコワソモ如何にコワ如何に此れにも誠意を捧げた、れ茶羅の誠意は掛替があるのだから堕らない、然るに工藤君は又聞ゆる勇者であるのでれ茶羅は遂に入院する事になつた治療費は差引勘定になるから決して苦痛はないのだ、約一ヶ月半計りして退院する間もなく房枝は再勤することになつた從つて木村君は元木に優る末木なしと房枝の方へ乘り替はた、元來れ茶羅は房枝に較べると腕なるものが半分も無いので左樣なつた後も木村君がれ茶羅に眼鼠をする事がある、直ぐと房枝はれ茶羅をコツキ廻すので縮み上つて居る内又々房枝は落籍されて内地へ歸つたので今は誰れに遠慮もなく木村君と工藤君とを兩手に土偶の坊の如く弄んで居る其の腕も上達したものだ、處が彼れには一世も二世もと云ひ換はした情夫がある、夫れは○○府○○課の技手渡邊某である、技手位で能く金錢が廻るなぞと云ふ勿れ金錢は天下の融通ものだ、此の渡邊君の事だけは何うか誰れにも話さない樣にして戴きたい

●大盡は無錢客　九日午後十時頃新町遊郭日曜樓にカラ〳〵ッと威勢よく車を横付に乘込み仲居は良き鳥が取れたと喜んで入來しやいと案内歌仙を敵妓に酒ビール鱈しと飲め食への大散財で計算は明朝とある翌朝に至り計算を促したるに旭町一丁目の命貸大村保太氏と親族關係なりと使者をして金の取寄せに手紙を遣したるに知らぬとの返事にチーパリ今度は明治町二丁目杉市郎平氏に使を遣りたるに是又チーパリで結局金十二圓餘の遊興費を懷中無一厘にて支拂へず無錢遊興として南部署に突き出されたるは熊本縣熊本市上通り一丁目十六番地生れ山尾定度(二六)なりとは無粋な遊客かな

●惡測量師の拘引　原籍山口縣都濃郡鶴山町千九百八十一番地士族當時仁川仲町一丁目水津旅館寄寓測量師藤田久藏(四五)及原籍島根縣那賀郡濱田町字淺井二百四十四番地當時仁川宮町二丁目仲介業西田喜作(四〇)の二名は常に共謀して惡計を廻しつゝありしは己に人の知る處なるが去る八日兩名共土地賣買文書僞造詐僞取財の罪名の下に春川裁審判事の令狀を以て其筋に拘引せられたるが事裁審に屬するを以て事實の眞想を報道するを得ざれども之が關係者は非常に多數に上るべしと云ふ

●寡婦の稼業變へ　新町三丁目に中木高一とて溫飩製造業の看板にて其の實三百代言業巫女を使ふて日鮮人を胡魔化し少からぬ金を捲き上げたる詐欺師あり數年に渉り巫女或は神佛信仰を口實に詐欺する事甚だしきより遂に其の筋の檢擧され京城地方裁判所に於て有罪の判決を受け確定して永登浦監獄に送られたり然るに中木高一の内縁の妻にて山口縣玖珂郡麻里村生れ白木ふさ子とて當年二十七歳になる婦人あり三十七年渡鮮せしが世話する人ありて中木と内縁を結び日鮮人を詐欺し居りしが殊に悧巧のふさ子とて口車に乘る無智の老幼の日鮮人多かりき然るに高一が永登浦監獄に送られし以來無事出獄をと朝夕祈り居りし甲斐もなく不幸にして監獄内にて脚氣に罹り遂に死去せり玆に於てふさ子も獨身で巫女使でも覺束なくなりしより方法を替へて新町大和新地松竹樓の仲居に從事し居れりとぞ

●竊盜犯人の就縛　原籍新潟縣中蒲原郡中津村生れ當時仁川住所不定の自稱阿部與一事中田次郎吉(三九)は郷里に於て前科二犯の曲者にて出獄後朝鮮に渡り又もや竊盜罪を以て永登浦監獄に收監され昨年五月を以て一ヶ年の懲役を終り出獄後も改悛せず一定の住所なく浮浪し何も京龍仁間にて竊盜を働き居たる形跡あるより仁川署の坂下今井の兩刑事は探査中なりしに去六日仁川扭峴驛鐵道第八號官舍澁谷研三郎方へ忍入り衣類入の柳行李一個を竊取し續て九日又も同家に忍入り澁谷外四名の衣類全部數十點價格二百餘圓を竊取し該贓品は京町一丁目質商古島圓次方外數ヶ所に入質し遊興に耽り十二日午前十時龍岡町一丁目鮮人家屋の一隅に潜伏し居る處を阪下今井の兩刑事に探知され捕縛して本署に引致し目下取調中なるが尚餘罪ある見込なりと

●堀回漕部の親切　日本郵船會社仁川代理店堀商會回漕部が平素業務に忠實なるは世人の知るところなるが郵船の一乘客にて過日横濱より大連行の途中仁川碇泊中脚氣病に罹り重態に陷りたる者ありたるが萬事に親切なる同商會は右患者を上陸せしめ仁川病院に入院治療せしめたるも不幸死亡したれば葬儀其他死後の取片付等何呉れと遺漏無く世話したるは實に奇特の至りと云ふべし

●結局十五錢の損　山口縣熊毛郡淺江村字實光寺二千六百七十九番地當時住所不定高橋七藏(二八)は竊盜前科付にて過日永登浦監獄出獄せしのみならず十一日午前八時頃本町一丁目裏通り氷屋藤原かつ方に至り氷、ラムネ、パン等を飲食し代金十五錢を支拂ひ數時間立去らざりしが主人一寸便所に行きたる隙に乘じ金一圓餘入りの手提金庫を窃取逃走したるを南部署に捕れ取調中

●高田屋の開業　家屋の構造其他改善の爲め久しく休業中なりし和樂園高田屋は十一日より開業したり取扱ひは親切叮嚀、料理は精撰し而して會計は極めてれ手輕に宴會、及び御集會等をも引受けれ色氣は御愛嬌までに止め一切萬事奇麗事に皆樣の御入來を待ち奉るべしと万一此の口上に僞りあらば主人を呼んでウンと叱り付け玉ふべし

●車夫志願者入水　京畿道利川郡戸法面酉谷里生れ李容敏(二四)は六年前より京城に來り諸所の日本人に雇れ居たるが實兄李容根が南山町一丁目にて人力車夫を營業して駐車場を經營中なるより車夫たらん事を希望し屢々車を買求め與れと相談したるも手元不如意に付秋迄待つ可く其の間擔軍を働けと云ひたるより自殺すべしと十一日午後五時半頃裏手井戸に飛び込みたるより實兄は勿論駐車場一同の者にて引揚げたるが此の急報に接し南部署より警官出張取調べたるに實兄を脅す爲の狂言自殺に飛び込みたるものにて何等負傷なきより不心得を諭し放還したりと

●六人で金六十圓　旭町二丁目六十三番戸山口縣人藤井万次郎(三七)長谷川町居住山口縣人熊谷つち(四六)太平町一丁目山口縣人浮村土藏(四七)旭町二丁目大塚倉吉方山口縣人柴田とよ(六七)旭町二丁目山口縣人大塚倉吉(三九)旭町一丁目山口縣人中村とく(五五)の六名は十一日午後四時半頃大塚倉吉方二階に於て八々を爲し南部署に檢擧され各科料金十圓に處せらる

●佛壇のボヤ　十一日午後八時十分頃本町三丁目松永達二郎氏方佛壇の燈火轉倒し佛壇の内部を燒きたるも直ちに消火し大事に至らざりしは芽出度〳〵

京城花柳評判記(六)

(藝者好)れ話中途かも知れねエが、今度は目先を換ねて藝者衆の評判が聽いたいネ。

(半生藝者)藝者の噂さは『藝者の半生』で素盡抜かれた揚句ですから、れ客の評判から先にして貰ひ度いわ。

(頭取)それでは藝者の方はれ後に廻って、

京城のれ客評判

から先に願ひます。

(民間議員)議長ッ、十六番!!

(頭取)十六番議員!!

(民間議員)本員は京城遊客の評判を試みるに當つて動議を提出したいと思ひます、と云ふのは外でも無い、此京城に生活しつゝある男子は、時に遊客として酒池肉林に低回するの特權を各自持て居ります、かるが故に遊客たる可き素質を有する男子が此問題を討議すると云ふ事は其說く所或は我田引水の弊害を醸しはすまいか、之れ實に本員の憂慮措く能はざる所であります、或は此問題は藝妓或は藝人の間に於て委員付託として協議せられん事を希望します。

(彌次)賛成ッ……で此頃の電車にチインだ。

(頭取)それでは姐さん連そのれ積りで稍々溜飲を降げて下さい。

(藝者甲)左樣言はれると何から申上げて宜いのだか只もうボーッとして了うわ、一體全體藝者ッ位割に合はない商賣はないネ、考ねても御覽じやい、いゝ年をしてやれ不見轉が烈しいの、いゝいゝ糸道も付いて居ないの、せんべいが低いの……なに品性だつて、惡るかつたわね、そんな事が滿足に使はれる樣なら貴婦人に成つて役者買をしますア……なんだかんだつて

鳥渡人聽の惡い事だと何から何まで藝者の所爲

にして了うんじやありませんか、けれども世の譬にも言ふ通り、不見は方々の旦那に隨ふ……オヤ又違つてゝ、だから漢語とあんパンは嫌だと言ふんサ……なにしろ藝者と云ふ水商賣はれ客と云ふ器に隨がつて居ればいゝので、圓くでも四角でもれ客に依つて調子を合せるのが藝者の手腕と云ふものでしよう。サノサとラッパのれ客へ歌澤だの一中の端唄を聽かしたつて、三味線に眠り藥が仕込んであるのかと思ふ位が落ち、與太なれ客を扱ふに矢ッ張り與太に成らなくてはれ飯が頂けないわ。京城の藝者がいくら計いのに、

遊ぶお客がれ百姓許

だからさ、わき土地から來たれ客に、京城にも乙な藝者が居ると感心させる樣にするのが、京城のれ客の義務だと云ふものだわ、あんまり聽いた風な事を云ふと、今夜から座敷へ呼んで遣らないぞ、なんて野暮を言はれない内れ次へ引渡すわ、之も商賣の弱味だとさ、辛棒して與れ今暫ッて子。誰れが言つたつて?チエッいゝいゝ箱根からこつちの代物だヨ、宿夫がよろしく……。

日曜集會

●メソヂスト教會(旭町二丁目)午前十時より禮拜說教午後八時傳道說教
(朝)エマヲ途上のエス　藤田牧師
(夕)觀光團所感　會田嘉伊智君
●京城基督教會(相生町)午前十時より禮拜說教午後八時より傳道說教わり
(朝)路傍の細流　米澤牧師
(夕)題未定　木村清松君

●演藝だより

●壽座　好人氣なる大坂二輪加十三日の替り狂言は左の如し　三人娘、ふられ與三郎、菅原三段目　藝者の一心

●浪花館　達磨虎峯女一行の浪花節

平民文庫

▲正岡藝陽會て『新聞社の裏面』なる書を著はし奔放の筆を以て大膽の評論を試み新聞記者は皆な馬鹿なりと罵れり予之を知らず小僧君に敢て問ふ將た又汝も鹿の糞なる哉(ウハヽヽ生)▲小僧、れ名指さしのれ客樣にれ尋ねする藝陽さんが新聞記者を目して皆な馬の糞なりと罵りしとかなるが何が故に馬の糞なりと言ひしにや夫れが判らなければ「將た又汝も鹿の糞なる哉」の意味が不明瞭であつて只の惡口と丈けで深刻な意味を成さないのをれ笑ひ生の爲めに憐む從つて返答に及ばず(小僧)▲滿月の文之助君は流石同樓にても古狸だけあつて凄い者だ他の者は張店で欠伸連發して居るのに引きかへ同君斗り

は御金盛なもの又此頃は○○府○○課の○藤さんに太井君を呼寄御樂み餘り浮氣すると○田君へ密告しますよ(千里眼)▲頑着宗教家の堕落は驚くものあり某宗教に卷石とか云ふ先生があるそうな所が此先生コップ酒にクダ卷の大得意で大の字風鼬のた得意のいきび發、と御座るそうな、若し斯る事あらば實に恕し難い耳(無線電信)▲第一樓支店で枕探しの被害受けたのは迎樓になわつたが名譽信用に關するので公にされなかつたとすれば此の庶殿なる處罰わるのが至當であらう聞けば本店でも被害を受けた人があるそうな(への字)▲○○病院檢黴醫の檢黴の手段は醜關係云々の評あり當該監督官に勸告す(よし子)